

自分自身や現代社会との関連性を見出す 歴史学習の可能性

—幕末社会とコロナ禍の社会構造を比較する授業を事例として—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

鶴 鴫 英輝

本研究は、過去と現代を結びつける歴史授業が、生徒の歴史に対する関連性の捉え方に与える影響を探索的に検討したものである。

開発・実践した授業の前後に行なった生徒に対するアンケートの分析結果から、生徒の歴史に対する関連性に有意な上昇傾向があることが認められた。このことは、生徒が歴史をより自分自身や現代社会と関わりがあるものとして捉えるようになった可能性を示唆する。また、授業において設定したMQへの記述を用いた質的分析では、約72%の生徒が過去と現代を結びつけて自らの意見を構築していた。

これらの結果は、歴史を参照しながら現代社会を認識し、現代社会の諸課題について考察する学習を成立させる基盤として、生徒が歴史を自分自身や現代社会と関わるものとして認識することの有効性を示唆する。すなわち、過去と現代を結びつけて歴史を学ぶ本実践は、そのような学習へと接続し得る前段階の学習として位置付けることができるといえる。